



# 共有すべき事例

疑義照会・処方医への情報提供

## 投与量



### 事例

#### 【事例の詳細】

70歳代の患者が歯科診療所を受診し、【般】ロキソプロフェンNa錠60mg 1回1錠疼痛時が処方された。患者はアスピリン喘息の既往があり、アスピリンやその他の非ステロイド性抗炎症薬を服用しないよう、かかりつけの医師から指示を受けていた。薬剤師が歯科医師に疑義照会を行ったところ、カロナール錠500 1回1錠疼痛時へ変更になった。交付後に、薬剤師がカロナール錠の添付文書を改めて確認した際、用法及び用量に関連する注意として「アスピリン喘息又はその既往歴のある患者に対する1回あたりの最大用量はアセトアミノフェンとして300mg以下とすること」と記載があることに気づき、再度、歯科医師に疑義照会を行った。カロナール錠300 1回1錠疼痛時へ変更となったため、患者に連絡してカロナール錠500を回収し、カロナール錠300を渡した。

#### 【推定される要因】

薬剤師は、アスピリン喘息又はその既往歴のある患者に対するアセトアミノフェンの1回あたりの用量が300mg以下と定められていることを知らなかったため、カロナール錠500への変更は問題ないと考えた。

#### 【薬局での取り組み】

本事例について薬局職員に周知した。



### その他の情報

カロナール錠200/300/500の添付文書 2023年10月改訂（第4版）（一部抜粋）

7.用法及び用量に関連する注意

7.5 アスピリン喘息又はその既往歴のある患者に対する1回あたりの最大用量はアセトアミノフェンとして300mg以下とすること。



### 事例のポイント

- アスピリン喘息は、アスピリンおよびその類似成分により、気道狭窄症状（鼻閉、喘息など）を呈する非アレルギー性の過敏症である。アスピリン喘息又はその既往歴のある患者に解熱鎮痛薬が処方された際には注意が必要である。
- 2023年10月にカロナール錠の添付文書が改訂され、禁忌から「アスピリン喘息（非ステロイド性消炎鎮痛剤による喘息発作の誘発）又はその既往歴のある患者」が除外され、「用法及び用量に関連する注意」にアスピリン喘息又はその既往歴のある患者に対する1回あたりの最大用量の記載が追加された。
- 薬剤師は日頃から添付文書やインタビューフォーム、診療ガイドラインなどを活用して薬剤に関する情報を正しく理解しておくことが重要である。添付文書の改訂があった際は、改訂された内容を把握するとともに、改訂の理由や背景などについても理解する必要がある。

